

No.257

2022年
2月号

さくら

図書館だより

(編集・発行)

宿毛市立坂本図書館
〒788-0001

宿毛市中央二丁目7番14号

☎ 0880-63-2654

FAX 0880-63-0155

図書館休館のお知らせ

坂本図書館では、毎年3月に『特別整理期間』として約1週間のお休みをいただいております。今年も3月7日(月)からお休みとなります。利用者の皆さまにはご不便をおかけしますが、ご了承ください。

なお、返却ポストは通常どおりご利用いただけます。

休館の期間 3月7日(月)～14日(月)



雑誌・図書を差し上げます

保存年限を過ぎた雑誌や除籍した図書を差し上げます。3月27日(日)までは冊数制限を設けていますので、その範囲内でお持ち帰りください。

期間 3月15日(火)～
(休館日を除く)

時間 10時～18時30分
(土日は10時～18時)

場所 坂本図書館

冊数 雑誌…1人3冊まで
図書…1人30冊まで
英字新聞…1人1束まで

※3月29日(火)以降は制限なし

児童書も
ありますよ



《図書館からのお願い》

図書利用カードに登録されている住所から引越された際には、図書館窓口で変更の手続きをお願いします。住所だけでなく、お名前、電話番号等の登録内容が変わった場合も同様の手続きをお願いします。

《展示のご案内》

展示期間 2月24日(木)まで

★メイン展示

「お菓子な季節」

1年で一番甘い季節がやってきました♥
お菓子を食べるのもよし。食べたなら体をシェイプすることもよし。ということで、
・スウィートストーリーズ
・バレンタインデー
・お菓子を食べたらエクササイズ
という3つのコーナーを設けました。



●メイン展示図書より(抜粋)

「チョコレートだいすき」「赤毛のアンの手作り絵本」
「バムとケロのおいしい絵本」「おおきなドーナツ」
「ラクやせ寝ストレッチ」「やせるダンス」

★サブ展示

「あたためる」

まだまだ寒さが続くこの季節。体の中からあたためてみませんか。

●サブ展示図書より(抜粋)

「お風呂を楽しむハーブ&アロマ」「お灸のすすめ」
「ニットであったか冬たく」「鍋おかず100」

読んでみませんか？

-新着図書のご案内-

(一般)

遺伝子の不思議としくみ入門

島田祥輔 著
朝日新聞出版

遺伝する病気、しない病気とは？人生は遺伝子によって決められている？

そんな疑問を「ココロ」「カラダ」「人生」などのカテゴリーに分かれて遺伝子の視点から解説しています。

人間だけでなく、地球上に存在するすべての生き物がもっている遺伝子のもつはたらき、しくみが分かる一冊となっています。

(児童)

月別カレンダーで1からわかる！ 日本の政治

伊藤賀一 監修
小峰書店

「政治」とは一体なんですか？言葉はよく聞くけど、なんだか難しそうであり関係がないと思う人も多いかもしれません。しかし、実は私たちの生活に深く関わっていく社会のしくみやルールを決めるもとなります。

本書では、月ごとに政治に関係する行事を紹介して解説。社会の一員として全ての人が考えて興味を持つことが社会をより良く変える第一歩となります。

(一般)

血の歌

なかにし礼 著
毎日新聞出版

青春時代の栄光にすぎり、自身を省みることなく年を重ねていく主人公・中西。売れっ子作詞家の弟を巻き込み、注目を浴びる謎の歌手が自分の娘であるという葛藤にもがきながら、彼の底知れぬ墮落は続いていく…。

著者の自伝的小説『兄弟』の習作と思われる短編小説。戦後なにひとつ成功することなく足掻き続けながら生きた男の哀愁に引き込まれ、いっき読みしてしまいます。

(児童)

こんなかお、できる？

ウィリアム・コール 作/トミー・ウンゲラー 絵
好学社

よる、少しでも長く起きていようとするフランシスは、パパとママのなやみのたね。

あるばん、パパはゲームをかんがえた。パパのゲームでフランシスは寝てくれるのか？

子供と一緒に読みながら、マネをするのも楽しいのではないのでしょうか。

※本の紹介文は、スタッフが作成しています。

2月の紅茶

松澤まり子

立春になった。春は名のみ風の寒さよ、立春の次の日は日本列島は寒さに震えている。宿毛市も5~6度くらいの気温で寒いったらない。でも近所の畑では菜の花が冷たい風の中かわいく咲いて揺れている。この前も銀行に自転車で行く途中、田んぼに咲いているれんげを見た。春近し、である。

ここのところのわたしのアタマの中は、編み物、007、お昼ごはん等でいっぱい、ほかにも、仕事、コロナ、原油高、等もあるのだが、それは横に置いて…… (笑)

今日のお昼ごはんは一人用の鍋でなべ焼きうどん風のうどんにしようと思っただけで、蓋はどこへ行ったんだろう？蓋、知らん？と母に聞いたら、あんた、割ったやんか、と言う。そうだったっけ？すっかり忘れてしまっていて、わたしのアタマの中はどうなっているんだろう？と少々不安になりつつ、あんかけ卵うどんを作った。昔読んだ椎名誠のエッセイに「ひるめしのもんだい」というタイトルの本があったがいま正にいいタイトルだなあ、と思う。内容はすっかり忘れていたが(出た健忘症)。今日のような寒い日のあんかけ卵うどんは美味しかった。お昼ごはんは何にしよう？と朝起きてミルクティーを飲みながらいつも考える。ぼーっとしたまま、お湯を沸かし紅茶のティーバッグをマグカップに入れお湯を注ぎ、冷蔵庫から牛乳のパックを取り出して牛乳を入れ、ミルクティーにする。ここでイギリス人だったらティーバッグをスプーンでぎゅうっと押すのだがわたしはしない。ティーバッグそのままカップに入れたまま紅茶を飲むのだ。なんとも不作法な飲み方ですいません。いつ頃からかもう忘れたが(出ました健忘症……)もう何年もそうした朝を迎えている。思えば寝起きにミルクティーを飲みだしたのはイギリスに行ってからかもしれない。そうなるともう何十年も変わらない習慣になっている。

一番最初にイギリスに行ったのは数十年前、叔父叔母夫婦と従妹と叔母の甥御さん2人で総勢6人で行ったフリーのバック旅行だった。イギリス留学を考えていた頃で、まあまず行ってみようかと海外旅行が趣味の叔父夫婦に頼み込んで(たぶん。どういういきさつかは忘れた)初めてのロンドン旅行だった。ホテルはビジネスホテルのような感じで小さなケトルとポットと紅茶のティーバッグが置いてあった。確か12月でイギリスでは珍しいという雪が降っていた。何

だかものすごく遠い昔のような気がする。インターネットや携帯電話などなく飛行機内でまだ喫煙席があった時代。今考えると信じられない。

本当にイギリスでは紅茶をよく飲むと知ったのはそれから数年後に留学をしホームステイをしてからだった。朝ごはんはミルクティー、お昼ご飯の時もミルクティー。どこかに出かけたり散歩などした後、家に帰るとまずミルクティー。夜など寝る前にも飲んだり……と、むろん、駅などにも売られていて、サイズも選ぶことができ、大きなサイズの紙コップの紅茶を手で駅のホームを口笛吹いて歩いている人もいたっけ。スーパーマーケットの紅茶売り場はコーナー全部ありとあらゆる紅茶が売られていたのを思い出す。イギリスは水が硬水で紅茶に合うのかどこで紅茶を飲んでも美味しかった。ホームステイ先のアイルランド人のおばさんは看護師で同業の移民の友達が多く、よく家におしゃべりに来ては彼女たちは勝手知ったるおばさん家、という感じで台所で「自分」の紅茶を自分で作っていてそれが普通らしかった。

やたらそんなことを思い出すと考えていたら2月はイギリスに一人で留学をした月だった。28歳の子供のような恥ずかしい自分が赤い大きなスーツケースを転がして学校からの迎えが来ずに右往左往しながらバスに乗り電車で2時間ほどかけて学校のある町まで行った。直前の町のイーストボーンという町の灯りが電車の中から見え、とても美しかったことを忘れられない。



2月の夕暮れ

～新着図書のご紹介～

一般図書



0	「読書会の教室」	竹田信弥
1	「日本神話がわかる神々のくらし」	瓜生中
2	「戦争の文化」	ジョン・W・ダワー
3	「多様性って何ですか？」	羽生祥子
4	「知られざる水の化学」	齋藤勝裕
5	「体、知能がグングン育つ離乳食」	宗田哲男
7	「仏師から見た日本仏像史」	江里康慧
9	「木こりになって良かったよ」	姫榊ソヨ子
9	「源氏物語解剖図鑑」	佐藤晃子
9	「その日まで」	瀬戸内寂聴
9	「革命と献身」	ヴィエト・タン・ウエン
9	「ボタニカ」	朝井まかて
9	「捜査線上の夕映え」	有栖川有栖
9	「月の光の届く距離」	宇佐美まこと
9	「ミーツ・ザ・ワールド」	金原ひとみ

児童図書



「図書館図鑑」	小田光宏
「ぼくのわたしの著作権ずかん」	森田盛行
「サクラの川とミライの道」	稲葉なおと
「月別カレンダーで1からわかる！日本の政治」	伊藤賀一
「国連ファミリー・パーフェクトガイド」	稲葉茂勝
「伝え守る」	宇井真紀子
「こども気候変動アクション30」	高橋真樹
「この指とどけ」	村上しいこ
「大豆ミートのひみつ」	高世えり子
「日本郵政のひみつ」	工藤ケン
「よそんちの子」	いとうみく
「ケケと半分魔女」	角野栄子

絵本



「山の上に貝がらがあるのはなぜ？」	アレックス・ノゲス
「こんやははなびたいかい」	きしだえりこ
「旅の絵本」	安野光雅
「こんなかお、できる？」	ウィリアム・コール
「せっけんとけしごむ」	及川賢治
「たいぼく」	齋藤慎
「みんなのいちにち」	たけうちちひろ
「ぞうくんのおおゆきさんぽ」	なかのひろたか
「まあちゃんのみかんのき」	西巻茅子

大活字本の新しい本が入りました



大活字本とは、小さな文字が読みにくい方のために通常より大きな文字で書かれた本です。本を読みたいけど、字が見えづらくて少し疲れるといった方などにおすすめです。大活字本コーナーに置いてあり、過去の名作から現代まで様々なジャンルがありますので、一度お手にとってみてください。

「夏目漱石大活字本シリーズ・坊ちゃん」ほか
夏目漱石

※左側の数字は図書の分類を表しています。
0...総記、1...哲学、2...歴史、3...社会科学、4...自然科学
5...技術、6...産業、7...芸術、8...言語、9...文学

★このほかにもたくさんの図書が入っております。
図書館ホームページでは、月ごとの新着図書一覧を公開しておりますので、そちらもぜひご覧ください。

2月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

3月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

開館日時 火～金 10:00～18:30 土・日 10:00～18:00 ■ は休館日
 ホームページ <https://www.city.sukumo.kochi.jp/docs-25/p010805.html>
 メールアドレス tosyo@city.sukumo.lg.jp